

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	愛光保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	社団法人 京都府保育協会		

平成 20 年 2 月 8 日

総 評	<p>愛光保育園は、創立理念「愛せよ 光の子となれ」に基づき、大正15年より、木津町（現木津川市）において、愛の精神にそった家庭的な保育に取り組んでいます。</p> <p>保育内容・給食・衛生管理・安全管理・防犯対策・保育室等、随所に工夫が見られ、歴史の中で培われた地域との関係は深く、関係機関との連携も確立され、さまざまな取り組みがなされています。</p> <p>全職員が保育倫理綱領に基づき、常に専門知識の習得や技術の向上に努め、自らの人間性と専門性の向上に意欲的に取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理念・基本方針が確立され、保護者に対し保育内容等を記した「えんのしおり」を作成し配布すると共に、連絡ノートは複写式となっており、保育園内での子どもの様子・情報等、保護者への周知体制が整い、地域・関係機関との連携体制が整備されています。 ○ 安全管理・衛生管理についてマニュアルが整備され、必要に応じ見直しがされ、全職員に周知されています。 ○ ボランティア・実習生の受入れについてマニュアルが整備され、積極的に受入を行っています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園運営全般において、管理者の指導力が発揮されている事を確認しましたが、更に管理者の果たすべき役割と責任について、具体的な仕事内容とその妥当性についての評価・見直しをされる事が望まれます。 ○ サービス内容について定期的に評価を行う体制が整っていますが評価結果に基づく課題に対して、改善策・改善計画を立て実施されると良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】

評価結果対比シート

受診施設名	愛光保育園
施設種別	保育所
評価機関名	社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	平成20年2月8日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	B	A
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	B	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	非該当	非該当
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。 (当面の間、「事業計画」についてのみ評価を行う)	A	A
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。 (当面の間、「事業計画」についてのみ評価を行う)	B	B
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

【自由記述欄】

・理念、基本方針共に、園のしおりやホームページ等において明文化されています。

・福祉サービスの計画は、職員の参画のもと前年度の反省や保護者の意向に基づき策定され、法人全体で協議された後、園長から職員や保護者に対して説明されています。

・管理者の役割と責任について、職務分担表において明示していますが、自らの行動が職員や保護者から信頼されているかどうかを把握し評価・見直すシステムがあるとおよいでしょう。

・管理者は、積極的に研修に参加し、法令や倫理を正しく理解するよう努めています。また、職員に対し職員会議において保育の動向、法令や労働・勤務、苦情解決、保育者としての心構え等に関する事を説明するなど、常に保育園の運営、保育サービスの向上に向け指導力が発揮されている事が確認できました。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	A
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	非該当	非該当
		③ 外部監査が実施されている。	非該当	非該当
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	C	C
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	A
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		A	A	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	A	A
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	A	A
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	A	A
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	B	B
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		B	B	

【自由記述欄】

- ・経営環境の変化に対応し、保護者会活動等地域活動を通じて地域の福祉ニーズを把握するよう努めています。
- ・理念・基本方針・事業計画等を実現するため必要な人材、人員体制が整い、早期に保育ニーズを把握し、保育サービスの実施に向けたプランを確立しています。人事考課の目的や効果は理解していますが、保育は人と人との交わりであり、客観的に判断することが難しいため、あえて人事考課は実施していません。
職員の仕事上の悩みや相談に対して的確に応え、意向を改善する仕組みが整っています。
- ・職員の教育・研修について基本姿勢を明示し、計画に基づき具体的な取り組みが行われていますが、教育・研修結果による個別の評価・見直しをされると良いでしょう。実習生の受け入れについては、体制を整え積極的に受け入れをしています。
- ・安全管理について、門扉や玄関には電気錠を設置してモニターで監視し、不審者の侵入を防ぐと共に、その他の緊急時の対応もリスクの種類に応じてマニュアル化し、定期的に検討しています。
- ・地域の子ども達との交流、小学生から大学生まで様々な年齢のボランティアを積極的に受け入れ、関係機関との連携も適切に行われています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	A	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	B	B	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	B	B	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	B	B	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	A	A	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	B	B	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	B	A	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	B	A
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	B	A
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			B	B	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	A	A	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	A
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		A	A	
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	B	B	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。	① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	A	
		② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	A	A	
	Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	A	A	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	A	A	

【自由記述欄】

・利用者を尊重した取組みが随所に見受けられ、利用者が相談・意見を述べ易い環境を整備し、相談や意見をまとめて意向を汲み取り、個々のサービス実施について職員間で共有し、迅速に対応する仕組みが確立されていますが、多様な子育てニーズに対応するため、様々な工夫をされると良いでしょう。

・サービスの確保について、サービス内容について定期的に評価を行う体制は整っていますが、評価結果に基づく課題に対しての改善策・改善計画が整っていないため、今後の取組みが望まれます。個々のサービスについては、実施方法を文書化し、見直しをする仕組みが確立され、職員間で共有しています。

・サービスの開始・継続について、利用者向けに自園のホームページを活用して、わかりやすく保育園を紹介し、「えんのしおり」を作成して理念や保育サービス等を紹介し、利用者等に説明会を開催して同意を得ています。

・サービスの実施計画について、子どもの身体状況や生活状況を把握するためアセスメントに基づき、サービス実施上のニーズや課題を明示して、サービス実施計画の評価・見直しを実施しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート 保育所

受診施設名	愛光保育園
施設種別	保育所
評価機関名	社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	平成20年2月8日

【付加基準】保育所版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 子どもの発達援助	(1) 発達援助の基本	① 保育計画が保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている	B	B
		② 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している	A	A
	(2) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	B
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	非該当	非該当
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	B	B
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A

【自由記述欄】

・保育理念・方針にそって、保育計画・実践、記録がされていました。各マニュアルも確認しました。園長や主任のリーダーシップのもと、一人ひとりの子どもを尊重する記述が確認できましたが、今後はアンケート調査などを実施し、地域・保護者の意向をさらに考慮することが保育計画の充実につながるでしょう。

・登降園時の把握、体調管理など保護者と連絡を密にとり、職員間の連絡、連携体制、記録方法も工夫されていました。健康診断は年2回実施しています。受診できなかった子どもに対しては、園医との連絡を取り、再受診の調整を図っています。

・給食については、今年度から採用の委託業者との連携をとり、安心安全の給食提供を実施しています。給食会議は月1回実施しています。ただ、園長も気にかけておられましたが、衛生面を重視するあまり、子どもが育てた野菜などの利用が難しくなっているとの事、貴園ならではの工夫、アイデアの実践を期待します。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 子どもの発達援助	(3) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	B
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	B
	(4) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 子どもの発達援助		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	非該当	非該当
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	B

【自由記述欄】

- ・保育環境として理念・方針より「キリスト教」に基づく掲示物が、玄関や廊下など多くの人の目にふれるところに効果的に飾られていました。
- ・訪問当日は、とても寒い日でしたが、朝の時間帯、幼児を中心に体操・縄跳び・リレーなど元気に行われ、氷を見つけて、子ども同士観察しあうなどの姿も見られ、保育士の声かけ・対応も一人ひとりに自然に行われていました。指導計画に理念・方針から、その月・週のねらいが組み込まれ実践されています。
- ・園舎も古く、保育室も決して広くはありませんが、職員会議等で部屋の使い方や子どもの様子にあわせた模様替え、スペースの使い方などが繰り返し話し合いがされていました。一人ひとりの子ども達の生活の場として、ふさわしいものとなるようより工夫されると良いでしょう。
- ・寝具の消毒に関しては、保育園での定期的な消毒は実施していませんが、毎週、保護者が持ち帰るようになっています。また、汚れたものがあれば、園で洗濯をしたり、干したりしています。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	(1)入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	B	B
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
	(2)一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当
A-3 安全・事故防止	(1)安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	非該当	非該当
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	非該当	非該当
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	非該当	非該当

【自由記述欄】

- ・関係専門(医療・子育て等)機関とのきめ細やかな連携をし、地域の社会福祉施設として長年担ってきた実践、記録を確認しました。
- ・子どもの生活状況の把握のために、懇談会など年1回以上、全園児を対象に実施し、記録も確認できました。
- ・低年齢児(1・2歳児)については、特に園オリジナルの複写式の連絡ノートの用意をし、保護者との情報交換、育児支援に活用しています。
- ・虐待児の早期発見のためマニュアルに基づく研修を全職員を対象に行われると良いでしょう。なお、虐待児を発見した場合の園内連絡体制及び行政機関等への通告体制は明示されており、全職員に周知徹底されています。